

令和元年度 社会福祉法人札幌光陽会 法人本部事業報告  
年度達成目標の達成について

1. 札幌光陽会の特色・特徴を再確認し、広く知られる為の活動を行う。
  - ①法人・各事業所が実践している特色・特徴を再確認する活動を行うことについては、各事業所における特徴・強みを再確認する活動が見られた。
  - ②いわゆる「広報下手」を解消すべく、様々な活動が行われた。しかしコロナ感染拡大に伴い一部の利用者の自粛などが見られて積極的な広報活動が行いづらい環境になった。
  
2. 「働き方改革」に資する業務見直し・改善を実行する。
  - ①各事業所において働き方に対する変化対応が見られた。「ユースエール」基準の年休取得は2年連続達成、又、労働法改正に伴う年休5日付与についても全事業所で達成している。
  - ②人材確保では苦戦が続いているが、保育園で新卒採用4名、特養で求人直接応募や職員の紹介等が見られるようになった。

法人本部事務部門達成目標

1. 各種変更等に対応した事務処理を確実に実行する。
  - ①作業の相互・最終チェックの再構築。  
→昨年は職員間相互チェックがスムーズにいていない部分があったが、当該年度で改善が見られた。
  - ②各事業所長との綿密な打ち合わせの実行。  
→必要な事項について各事業所長との意思疎通の上で事務処理できている。新たに始まった特定処遇改善の処理で苦労したが、何とか実行できた。
  
2. 各事業所での業務改善のサポートを行う。
  - ①労働法に関する情報提供を行う。  
→労働法改正により年間5日有給消化が必須となり、非正職員部分の年休消化情報を提供し目標を達成することができた。
  - ②各種データの集計と情報共有を定期的に行う。  
→勤怠データを集計して毎月及び適時提供し、各事業所における管理意識が向上した。ユースエール認定に必要な項目について各事業所で管理が向上した。

## 業務実績

- 平成31年4月21日 新入職員研修 場所 本部会議室  
令和1年6月5日 監事監査 場所 本部会議室  
                        理事会  
                        6月22日 評議員会 場所 ホテルライフオート札幌  
                        7月1日 広報誌「ほほえみの丘」第37号発行  
                        7月27日 第26回ふれあい祭 場所 ケアハウス駐車場等  
                        9月 中旬 監事監査 場所 各本部・自宅  
                        9月18日 理事会 場所 本部会議室  
                        12月4・10日 監事監査 場所 各自宅  
                        12月18日 役員会 場所 本部会議室  
令和2年1月1日 広報誌「ほほえみの丘」第38号発行  
                        1月11日 法人合同新年会 場所 センチュリーロイヤルホテル  
                        3月 日 監事監査 \*新型コロナウイルスの影響により書面監査  
                        3月 日 理事会 \*新型コロナウイルスの影響により書面決議  
                        3月 日 評議員会 \*新型コロナウイルスの影響により書面決議

- I 定期的に行うもの 本部会議（毎月第一木曜日及び随時）  
                                法人本部事務部門 打合せ（毎日及び随時）  
                                法人本部用務部門 打合せ（毎日及び随時）

- II 不定期に行うもの ①広報・ホームページ部会 年2回発行  
                                ②福利厚生部会  
                                ③ふれあい祭実行委員会

- III 研 修 ①新入職員研修 1回  
                                ②3. 4年目・幹部研修 各1回  
                                ③在宅事業部 地域住民向け開放講座 1回  
                                ⑤外部研修参加 2名

- IV 職員状況 事務3名  
                                用務1名

- V その他  
                        \*職員メンタルヘルスチェック  
                        \*安否確認サービスの運用開始（メール訓練の実施）  
                        \*合同避難訓練の実施  
                        \*新型コロナウイルス感染症に関する対応

< 理事会・評議員会の主な議決事項 >

理事会

- ①令和1年6月5日
  - 前年度事業・決算報告 議決
  - 西岡高台保育園 駐車場整備 議決
  - 就業規則の一部変更案（有給5日取得対応） 議決
- ②令和元年6月22日
  - 理事長、業務執行理事の選任 議決
- ③令和1年9月25日
  - 給与規定の一部変更（特定処遇改善対応） 議決
- ④令和1年12月18日
  - 第1次補正予算案 議決
  - 給与規定の一部変更（最低賃金改正対応）
- ⑤令和2年3月 書面による議決
  - 令和2年度事業計画・予算案 議決
  - 経理規程の一部変更案 議決
  - 保育園運営規程の一部変更案 議決

評議員会

- ①令和元年6月22日
  - 前年度事業・決算報告 議決
  - 理事・監事の選任 議決
- ②令和2年3月
  - 令和元年度補正予算案 議決
  - 令和2年度事業計画・予算案 議決

平成31年度

## 西岡高台保育園事業報告書

西岡高台保育園

### 平成31年度の入所児童数

4月は、130名定員のところ、131名でスタート、3月には136名となり、月の平均入所児童数は、133名となった。

### 1. 西岡高台保育園 基本方針

1. 恵まれた自然環境を通して豊かな心と身体が育つ保育を目指す。
2. 1人ひとりが自己を充分発揮でき、その表情が輝く保育を目指す。
3. 統合ケアを通じて優しさや思いやりが自然に表現できる保育を目指す。

### 2. 平成31年度 西岡高台保育園 年間達成目標

- 1、西岡高台保育園の特色・特徴を再確認し保育を行う。  
(裸足・薄着)
- 2、業務の見直しを行い、改善を図る。(継続)  
(行事の取り組み方・業務軽減)

### 3. 平成31年度 部門別年度達成目標

#### 1) 保育部門(乳児)(幼児)

- 1、保育の特色・特徴を再確認し、保育を深める。
- 2、室内外の環境整備・清掃を心掛ける。

#### 2) 給食部門

- 1、給食の取り組みにおいて見直し、改善・実践することが出来る。
- 2、食の安全と食育活動の再確認と発信。(継続)  
(食に関する広報活動【HP・お便り・掲示板等】)

#### 年間達成目標

・年間達成目標においては、安全・衛生部会、保育環境推進部会、食育・アレルギー部会、遊び専門部会の4つのグループに分けリーダー・サブリーダーを中心に研修を深める事が出来た。

小グループでの部会でもあったという事で、意見、反省、発見等ひとり一人から積極的に出ている事は、評価したい。

今年度出た、反省評価・課題については、来年度に繋げさらに保育を深めて行ければと願う。

・業務の見直しにおいては、職員アンケートを取った結果、各会議の持ち方(夜の残業をなくしていく)行事の取り組み方、事務の取り方等の意見が出ており職員の意見を参考にしながら、改善に向けて、働きやすい環境整備に努めていきたい。

## 保育部門(乳児)(幼児)

### ① 保育の特色・特徴を再確認し、保育を深める。

今年度は、裸足保育を中心に足指・土踏まずの形成を中心にサンダル履きをし園庭で遊ぶ事、  
年中年長組中心に、ホールでの雑巾当番を継続的に行い体幹強化にもつなげる事が出来た。  
来年度も継続し、日々の遊びの中でも足裏に刺激が与えられる遊びを取り入れられるよう、  
ひとり一人が、意識を持って取り組んで欲しい。

### ② 室内外の環境整備・清掃を心掛ける。

各クラスにハンドクリーナーを設置してあるが、夏場は、砂が各部屋に入り込む事が多く、保護者  
アンケートの中でもご意見としてあがってくる。今後ともその都度対応していきたい。  
各クラスで掃除チェック表を作っているが、行事等が入ってくると、後回しになる傾向があるので  
衛生的を考え、しっかりと取組めるよう意識付けをしていきたい。

## 給食部門

アレルギー対応は、今年度しっかり行えることが出来た。来年度も引き続き2重3重のチェックに  
なるよう取り組んでいきたい。箸・フォークに関しては、各クラス月1回以上回ることが出来思考  
錯誤の上統一した指導を行うことが出来た。これからも基本を崩すことなく指導を進めていきたい。  
クッキングの取り組みは今後、感染症の時期を外し、計画的に担任と連絡をとり進めていきたい。

## 衛生 (伝染性疾患) ( )内は昨年的人数

溶連菌感染症 名(58名)	ヘルパンギーナ 名(3名)	リンゴ病 名(30名)	ウイルス性胃腸炎 名(13名)
プール熱 0名(0名)	風しん 0名(0名)	水痘 0名(1名)	RSウイルス感染症 10名(8名)
インフルエンザA 名(78名)	インフルエンザB 名(0名)	流行性結膜炎 名(3名)	突発性発疹 名(8名)
流行性耳下腺炎 名(1名)	手足口病 名(43名)	アデノウイルス 名(4名)	マイコプラズマ肺炎 名(1名)

## 障がい児保育

3歳児クラス男児1名自閉症スペクトラム(軽度)と2歳児クラス男児が令和元年7月1日に  
自閉症スペクトラム(中度)と認定を受ける。2名共に札幌市の巡回指導年2回と、3歳児  
クラス男児は、保護者の希望で送迎付き児童発達支援放課後等サービス支援等を利用。  
2歳児クラスの男児は、保護者と共に週1回保育園を休みデイサービスに通所している。

## 一時保育事業

(非定型→労働、職業訓練、就学等・緊急→災害、事故、出産、看護、介護、冠婚葬祭等)

4時間以内の延べ利用児童数は非定型0名、緊急1名計1名。4時間を越える延べ利用児  
童数は非定型25名、緊急0名計25名となる。利用理由としては、親の就労・通院であった。

## 短時間保育利用状況

(1ヶ月に就労時間64時間以上120時間未満、育児休暇、求職活動、疾病、障害等が対象)

今年度は、4月に6家庭が利用。就労、育児休暇、求職活動等の理由での利用状況であった。  
結果、育休利用終了、就職の決定、就労時間延長のため短時間保育から標準保育への移行  
があり、3月時点で、短時間保育利用家庭は9家庭となった。

## 平成31年度行事実施報告書

月 日	行事内容	月 日	行事内容
5月28日	種芋植え	10月23日	交通安全教室
5月7日～5月30日	小遠足(高台公園、水源池)	10月25日	食育保護者講習会(保護者対象)
6月4日	個人懇談会	11月8日	お店屋さんごっこ
6月10日	サッカー教室	11月18日	サッカー教室
6月12日	避難訓練(消防署立ち合いのもと総合訓練)	12月14日	クリスマス会
6月14日	親子遠足(滝野すずらん公園)	1月8日	餅つき大会
6月17日	お祭りごっこ	1月14日	人形劇えりっこ公演
7月6日～7月7日	交通安全教室	2月3日	節分
7月10日	年長組お泊り会	2月5日	雪遊び遠足(きりん組)滝野すずらん公園
7月27日	すいか割り大会	2月7日	クラス懇談会(くま・きりん)
8月19日	ふれあい祭り	2月14日	クラス懇談会(あひる・りす・うさぎ)
9月7日	藍染	3月15日	第42回卒園式(内容変更)
9月10日	第41回運動会	3月17日	入園説明会(中止)
9月12日	収穫祭	3月18日	進級式
9月30日	年長組バス遠足(ぶどう狩り・動物園)	3月19日	きりん組思い出会(内容変更)
10月2日	小遠足(札幌ドーム、水源池)	3月24日	中学入学お祝い会(中止)

### 1 その他実施した行事

誕生会・避難訓練(年間12回)、歯科健診(1回)、園医健診(年間乳児12回・幼児2回)

### 2 統合ケア(法人施設)

<グリーンライフ光陽>

緑見会(雨天のためケアハウス内にて交流)・お祭りごっこ・お食事交流・歌発表

<みどりの丘>

お祭りごっこ・歌発表

<リハビリディサービスふあいと>

お祭りごっこ・歌発表

### 3 会議及び研修

職員会議(13回)・乳児打ち合わせ(13回)・幼児打ち合わせ(13回)各行事の打ち合わせ(5回)  
年間カリキュラム(1回)・市外研修(0回)・市内研修(13回)・園内研修(3回)・法人研修(1回)

### 4 専門機関連携

札幌市障がい児保育巡回指導(8月・2月計2回)

幼保小連絡会(3回)

### 5 幼・小・中・高校・大学交流

西岡南小学校(学習発表会観覧、1・3・5年生交流)・澄川南小学校職業体験・西岡北中学職業体験  
真駒内中学職場体験・西岡高台児童会館交流・新陽高校・経専北海道保育専門学校ボランティア

### 6 小学校・児童会館へ卒園児の引継ぎ

西岡南小学校・西岡高台児童会館

### 7 実習生受け入れ校

日本医療大学看護学科・札幌国際女子短期大学・経専北海道保育専門学校・子ども學舎  
札幌大学女子短期大学・藤女子大学・北翔大学短期大学・神戸教育短期大学

### 8 職員健診・接種

一般健診(1回)・腰痛検査(全職員2回)・インフルエンザ接種(1回)

### 9 開園40周年記念

9月29日(日)開園40周年記念祝賀会 開催

### 10 新型コロナウイルス関連

3月の行事は、密閉・密室・密接を避けほとんどの行事を中止とする  
消毒・手洗い・うがい・マスク着用・検温を徹底し感染拡大防止に努める(終息まで継続)



### 平成31年度 入所児童数・年齢別児童数

(上段 標準保育人数 下段 短時間保育人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0歳	8	8	9	9	9	10	11	12	14	14	14	14	146	12
	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
1歳	18	17	16	16	18	17	17	15	15	15	15	15	216	18
	0	1	2	2	0	1	1	3	3	3	3	3		
2歳	24	24	24	24	24	23	23	22	22	22	22	22	288	24
	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2		
3歳	24	24	23	23	24	24	24	22	23	23	23	23	297	25
	1	1	2	3	1	1	1	2	2	2	2	2		
4歳	24	22	23	23	23	24	24	25	25	25	24	25	310	26
	2	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1		
5歳	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計	131	130	131	132	131	132	133	133	136	136	135	136	1,596	133

### 平成31年度 時間外保育利用延べ回数

(回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0歳	4	1	7	11	4	15	10	3	13	12	29	14	123	10
1歳	26	23	33	40	27	31	56	48	55	32	44	33	448	38
2歳	104	100	99	120	97	93	93	93	103	92	101	59	1,154	96
3歳	60	38	45	42	34	47	68	72	67	66	65	60	664	55
4歳	116	125	115	147	127	133	136	133	140	103	138	91	1,504	125
5歳	134	128	135	143	116	125	130	114	134	116	120	71	1,466	122
合計	444	415	434	503	405	444	493	463	512	421	497	328	5,359	446
内) 脱がしい児	2	0	0	0	0	0	0	0	2	6	4	0	14	1
短時間	5	16	23	29	3	22	34	22	23	23	15	10	225	19

# 令和元年度事業報告

ケアハウス グリーンライフ光陽

特定施設入居者生活介護グリーンライフ光陽

## I. 令和元年度達成目標の結果(反省)

### 1. 入居者個々が、生きがいある生活ができるよう支援する

#### ①施設内支援においては、目標を踏まえ充実させる

反省⇒できた 職員一人一人が、意識を持って入居者に接し支援していた

#### ②地域への広報活動を、入居者には地域とのつながりを感じさせる活動支援を充実させる

反省⇒概ねできた 入居者の社会参加(活動意思や意欲)を感じる事が困難であることが多い中、  
いろいろな角度からアプローチできた

### 2. 「働き方改革」に資する業務見直し・改善を実行する(継続)

#### ①業務見直し・改善・再構築を行い、職員が自己実現(生きがい)職場づくりを実践する

反省⇒概ねできた

・職員が楽しく、充実感を以って業務を行っている職場づくり構築できているが、それぞれの  
職種でも意見が出し合い、共に成長できる職場をめざしたい

#### ②チームワークを充実させ、チームでの意見をボトムアップさせ、全体で決定・共有・改善していく

反省⇒できていない

・もっと具体的に職員に伝え、実践するべきであった令和2年度の継続目標にしたい

## II. 月別入居者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
男性	11	10	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	125	
女性	39	39	40	40	40	40	40	39	39	39	39	39	473	
合計	50	49	50	50	50	50	50	49	50	50	50	50	598	
一般入居者	15	15	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	194	
特定入居者	35	34	34	34	34	34	34	34	33	33	33	33	405	
要介護認定者	41	41	42	42	42	42	42	41	42	42	42	42	501	
内 訳	要支援1	6	7	7	8	8	7	7	7	8	9	9	9	92
	要支援2	6	6	8	5	5	6	7	6	6	5	4	3	67
	介護度1	18	17	15	16	16	15	16	18	19	17	18	19	204
	介護度2	8	9	8	9	8	8	6	5	4	6	6	6	83
	介護度3	1	1	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	34
	介護度4	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	21
	自立	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	97
入居者	0	1	2	0	1	0	1	1	2	0	1	0	9	
退去者	2	1	0	1	0	1	2	1	0	1	0	1	10	
入院者数	2	1	0	2	1	2	1	2	1	1	0	0	13	

## III. 外出・外泊・面会者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
面会者	93	112	83	145	162	125	122	115	94	76	103	0	1230	102.5
外泊者	3	7	4	4	7	5	5	4	5	0	0	0	44	3.7
外出者	11	6	10	8	13	10	17	9	1	0	20	0	105	8.8



## IV. 各部門報告

### 1. 介護支援報告

#### ①個別生活支援の充実

- a 入居者個々に寄り添う支援      b 入居者本位の個別支援計画書の作成(一般)
- c ケアプランを基にした支援(特定)

反省⇒概ねできた

- ・それぞれの入居者で違う環境や、本人の思いを理解できるよう努力し寄り添った関わりを持った
- ・希望を伺いながら、個別外出の実施ができた
- ・一般入居者の支援計画を作成する上で、相談員の協力・助言を得ながら、エンパワメントを意識した、計画の作成を行った
- ・訪室の時間が取れない状況でも、個別に関われる時間を作るよう努力したが十分ではなかった
- ・特定入居者の変化に柔軟に対応し、ケアプランに沿った支援が行えていた

#### ②仕事や人を通し、自身のやりがいに繋がる環境作り

- a 経験や学んだことを生かす      b 意見交換の場の充実      c 業務の効率化を皆で思案し改善していく

反省⇒概ねできた

- ・外部や施設内研修で学んだことを支援に活かすことができた
- ・日々変化していく入居者の状況に対応できるように、担当中心で話し合いを常に行った
- ・業務に追われ、思うような取り組みができなかったり、余裕がないことが多く効率化はできていない

### 2. 健康管理支援報告

#### ①入居者個々の疾患を理解し、体調管理に努めていく、また地域病院との連携を密にする

反省⇒できた

- ・特定入居者の体調管理に努めることができた
- ・一般入居者に関しては、相談された際に対応できた
- ・地域病院系列の病院とは密に連携が取れ、情報収集もできた

#### ②職員間との情報交換により、業務が円滑に行えるよう努める

反省⇒できた

- ・ミーティングにての情報収集もできていたが、ケアグロスを使用することによって、タイムリーに情報収集ができたので、業務が円滑に行えた

#### ③感染予防防止に努める(感染予防委員会)

- a 外部・入居者へに啓蒙活動を行っていく(手洗いうがいの励行)
- b 入居者参加型の感染予防委員会を2か月に1度、継続していく
- c 感染予防マニュアルに基づき、職員一丸となって感染を防いでいく。(ノロ・インフルエンザ)

反省⇒概ねできた

- ・啓もう活動により、職員・入居者の感染はなかった
- ・入居者参加型の感染予防委員会が実施できたが、高齢・認知症の影響で、参加した入居者の認識不足が感じられた
- ・ノロウィルス物品の配置の見直しが見直しができた
- ・地域の研修会に参加し、インフルエンザ予防薬の内服についてマニュアル化した。また職員の休みについても変更した。

### 3. 相談支援報告

#### ①個別支援の充実を目指して、入居者主体を意識した支援を行う

反省⇒概ねできた

- ・看護職と共同して、入居者向けの研修会を行った、地域の方や家族も参加して、
- ・「最期まで、ここにいたい」の思いを尊重して、入居者二人を自室で看取った

#### ②職員間の連携を意識して計画的な支援が行えるようになる

反省⇒できた

- ・入退室が例年より多く、次施設への判断など、他職種と連携し取り組むことができた
- ・退去から新入居までの期間を可能な限り短縮することができた

### 4. 食事支援報告

#### ①入居者個々が健康で楽しく生活できるよう食事を通して支援する

##### a. 献立作成

(目標) 高齢者が食べやすい食事を基本とし、楽しみにしていただけるメニューを組み入れ  
生きがいある生活ができるよう支援する

反省⇒概ねできた

- ・和食中心の献立編成とした。行事食で目先の変ったものを取り入れたが、好評と食べ慣れないという意見に分かれた
- ・炭焼きの行事食などは普段摂取量の少ない方も食べられる様子が見られた

##### b. 食事の提供

(目標) 高齢者の特性をとらえ、日常の食事で栄養状態の低下を防ぐ  
他職種と連携し、個人の栄養状態に合わせた個別対応を随時行う

反省⇒概ねできた

- ・メインの料理だけでなく、副菜にもタンパク質食品を使用し低栄養予防に努めた
- ・体重などチェックし、身体状態に合わせた食事形態や内容を随時話し合い個別対応をした。一般入居者の方で適正体重でない方への働きかけは特にしなかった

##### c. 茶話会

反省⇒「音のある喫茶店」にて主に土・日に実施した

食事制限のある入居者にも参加いただけるように、後半は低エネルギーのお菓子を提供した

### 5. 機能訓練支援

#### ○レクリエーション

#### ①楽しんでいただきながら、入居者それぞれの力を発揮できるよう実施する

##### a. それぞれの力が発揮できるレクリエーション

反省⇒できた

- ・アンケートを取り、ゲームや調理レクは希望の多い内容を取り入れた
- ・制作の事前準備やレクに必要な買い物を入居者と一緒に行った
- ・月一回、運動予防チームと体操を実施した、体操と制作を合わせたレクも行った
- ・身体を動かす機会が増えよかった

b.地域活動へ繋がるレクリエーション

反省⇒できた

- ・みどりの丘デイとの合同レクを実施し、参加人数も多く好評だった
- ・入居者制作の作品を保育園・小学校・児童館へ届けた
- ・カラオケ外出は、普段参加されない方も参加され、施設での開催要望もあった

c.季節を感じられるレクリエーション

反省⇒できた

- ・季節に合った制作は事前にお知らせし、興味をもっていただき好評・高参加率だった。
- ・散歩を2回行い好評だった
- ・毎月のレクリエーションの内容をふれあいに載せた

d.レクリエーション参加人数

※体操⇒リハビリ合同 ふま⇒ふまねっと

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1回目	ふま		ふま	ふま		ふま	13	ふま	ふま		ふま	ふま	13
2回目	体操	ふま	11	18	17	10	ふま	13	6	32	17	19	143
3回目	8		6	10	7		6	体操	8	26	7	体操	78
4回目	14	体操	12	体操	ふま	7	体操	7		ふま	体操	37	77
5回目		22					13						
合計	22	22	29	28	24	17	32	20	14	53	24	56	346

○体操(リハビリ)

①運動機能の維持・筋力低下防止を目的とした、日常生活での運動活動の提供をする

反省⇒概ねできた

- ・PTの助言を受け、運動の提案・活動の提供は行うことができた
- ・機能維持・筋力低下防止をできたかは不明であるが、意欲向上にはつながった

②個別の運動機能計画を立て、日常生活の中で適したリハビリが行えるよう提案していく

反省⇒概ねできた

- ・PTの助言が、そのばだけになってしまい、活かしきれなかった

6.介護予防

生きがいのある生活に繋がられるように、内容を工夫し、できる喜びと笑顔を大切にしながら、参加意欲の向上に努める

○レツツライ(入居者全般)

楽しく参加できる内容を提供し、脳の活性化を図る

反省⇒できた

- ・個々のレベルに合わせ問題を提供できた
- ・入居者のコミュニケーションも生まれた
- ・光陽祭での書道の取り組みで、28名の参加者を得たことがよかった

○アカデミー(認知症対象)

対象者それぞれが継続して参加したい思える内容を提供し、QOL向上を図る

反省⇒できた

- ・個別記録を確認しながら、参考にし臨機応変に対応した
- ・認知症予防に、有酸素運動が重要との意見があり、今後リハビリと共同取り組みをしたい

○グループアカデミー(アカデミー対象者と疑わしい方が自由参加で)

活動を通してコミュニケーションの向上を図る

反省⇒できた

- ・参加者が多く、参加同士が楽しくおしゃべりしながら、取り組んでいた
- ・見守りや助言が多く必要なグループとそれ以外の2グループに分け、充実できた

7.地域(統合ケア)交流

- ①地域との様々な交流行事や社会参加活動を通じて、地域で暮らしていることが意識でき  
楽しくハリのある生活を送れるよう支援する

反省⇒概ねできた

- ・交通安全活動は、積極的に参加される入居者が多く、地域との繋がりを感じられた

保育園児との交流(統合ケア)

月日	行事名	内容・反省など	参加者
6月20日	お祭りごっこ	中庭で実施した	20名
6月26日	緑見会	暑い日であったが、テントを張って、交流・昼食	28名
	卒園児出前交流	中止	

児童館交流

8月7日	夏の児童館交流	七夕飾り・かき氷	25名
	冬の児童館交流	中止	33名

小学校との交流

5月	春の交通安全活動	4回実施	延べ26名
9月	秋の交通安全活動	3回実施	延べ16名
11月 15日・19日・22日	6年生との交流	4クラス、4日間 手作りゲーム、入居者への質問など 小学生企画の行事	延べ47名

その他

6月3日	たんぽぽコンサート	札幌大学吹奏楽コンサート	9名
7月3日	ファイターズ	車いすの入居者は購入	3名

## 8. 研修

### ①施設内研修

研修会の名称	講師・主催委員会など	月 日	参加者数
入居者研修「自分らしく生きるために」	西岡病院 SW岡村様	5月15日	入居者29名
職員研修「事故簿の記録について」	事故防止委員会	8月30日	職員15名
職員研修「身体拘束について」	身体拘束委員会	9月25日	職員15名
職員研修「感染予防について」/ノロウイルス対応	感染予防委員会	11月29日	職員16名
職員研修「事故・ヒヤリハットについて」	事故防止委員会	1月29日	職員16名

### ②施設外研修

研修会の名称	主催団体	開催月日	参加職種
介護現場における「適切なケア」研修	札幌シニア福祉機構	5月30日	介護福祉士
生活リハビリと義肢装具活用術研修	札幌シニア福祉機構	6月6日	介護福祉士
対人援助レベルアップ研修	札幌シニア福祉機構	6月13日	介護福祉士
アクティビティ研修	札幌シニア福祉機構	6月20日	介護福祉士
排泄ケアを考える	札幌シニア福祉機構	6月27日	介護福祉士
ケアプランの作成方法	札幌シニア福祉機構	7月2日	介護福祉士/ケアマネージャー
認知症の人への気づきを深める	札幌シニア福祉機構	7月25日	介護福祉士
現場で役立つ医療と薬の知識向上研修	札幌シニア福祉機構	8月8日	看護師
「生きる」を支える看取り研修	札幌シニア福祉機構	9月19日	介護福祉士
医療政策の現状と医療・介護の連携を学ぶ	札幌シニア福祉機構	9月26日	介護福祉士
リスクマネジメント研修①	札幌シニア福祉機構	10月17日	看護師
北海道ブロック施設見学会(室蘭)	全軽協北海道ブロック	9月9・10日	相談員
北海道ブロック職員研究会	全軽協北海道ブロック	9月26・27日	相談員
北海道ブロック職員研究会	全軽協北海道ブロック	9月26・27日	介護福祉士
老施協全国大会	全国老人福祉施設協議会	10月29・30日	介護福祉士/ケアマネージャー
全国職員研究会議 東京大会	全国軽費老人ホーム協議会	11月28・29・30日	介護福祉士

### V職員状況

#### 1. 入職・退職者

退職者 1名

入職者 1名

#### 2. 令和年度末職員数18名

正職員ー17名

施設長1名 次長(介護職員兼務)1名 相談員2名 介護職員11名

看護職員2名 栄養士1名 ケアマネジャー2名(兼)

パート職員ー2名(介護職員)



# 令和元年度 特別養護老人ホームみどりの丘 事業報告

## I. 特別養護老人ホーム みどりの丘 年度達成目標結果

### 1. 利用者へのサービス向上と稼働率向上に取り組む。

○昨年以上に各部署協力して、入退所期間の短縮等に取り組み、利用者へのサービス、稼働率向上に取り組む。

⇒満足度調査を基にして、サービス向上への取り組みを行い、退所後の入所についての会議を随時行うなど、各部署コミュニケーションや報連相を図り、全職員協力して取り組んだ。

開設20周年ということもあり、他職種協力して、年度通して施設内外で入居者の笑顔の写真を撮り、広報紙やブログに掲載、年末感謝祭で参加されたご家族にスライド上映し、喜んでいただいた。

1月末からコロナウィルス感染症予防に努めながらも、年度結果としては、職員対応、環境整理等サービス全般、稼働率の向上改善を図ることができた。

### 2. 効率的に勤務時間を使う為、創意工夫により各種改善に取り組む。

○各部署は現業務を利用者、職員の為に見直し、業務改善に取り組む。

⇒介護職員退職者の発生、欠員補充困難な状態が続き、計画的な人材採用等には至らず。緊急シフトを組んでの介護職員勤務となった為、他職種協力の下でレク等の実施を行った。

また、各部署内は業務分担して効率的に業務を行うと共に、お互いに他職種間で連携し助け合いながら業務を行うことで、効率的に勤務時間を使うことができた。年度結果として、全職員が義務年休5日以上の取得を行うことができた。

## II. 特別養護老人ホーム みどりの丘 各部門年度達成目標結果、状況報告

### 【 各部門年度達成目標結果 】

#### 1. 介護部門

(1) 入居者が安心・満足出来るサービスを提供する為、全職員間で協力し合う。

⇒介護職員退職者の発生により緊急シフトが続き、緊急シフトを終了させるまでの入職充足が出来なかった。その為、他職種の協力が不可欠な状況であった。

入居者やショートステイの受け入れについても、相談員や看護師と情報共有や調整を行い体制を整えながら行った。

(2) 入居者・職員の状況に合わせ、業務の見直しや改善をしていく。

⇒介護職員退職者の発生、欠員補充困難な状態続く。緊急シフトが続き、介護職員主体での個別行事や外出の計画・実施が難しい状況であった。

全職員、公休・年休消化が出来る様、事前に計画をたて準備し、達成することが出来た。働き方改革の年休5日を消化後も、プラスして年休の提供も出来た。

主任業務は、変わらず時間外等で行う事が多い現状だが、副主任の協力により、以前より時間短縮することが出来た。

#### 2. 看護部門

(1) 加算に対応できるように他職種と連携を図り、利用者の健康管理を行なう。

⇒入所事前訪問から同行し他職種と情報共有することができ、入所後の健康管理にもつなげることができた。

(2) 質の高い看護が提供できるよう常に業務の見直し改善を行なう。

⇒看護部門で業務分担を行い、効率的に勤務時間を使うことができた。

#### 3. 生活相談部門

(1) 入退所期間が30日以内となるよう努め、毎月入所検討委員会を確実に開催していき、空床前に次入所予定者の選考を行っていき、入所の稼働率向上に取り組んでいく。



また短期入所定員5.0名以上となるよう取り組み、特養会議にて短期入所の稼働率などの情報を伝達、共有していき、各部署協力して利用者へのサービス向上に努める。

⇒今年度は入所12名、退所16名(うち看取り8名)対応。入退所期間平均39日(4月～1月)、月1回会議にて入所検討を定期に行うことで、多職種と情報共有でき、次選考もスムーズに行い、入居者1日平均59.5名と稼働率向上となった。

今年度は短期入所1日平均5.2名となり、特養会議でも入居同様、情報を伝達、共有を行った。また長期短期入所利用者のカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを定期的に行う等の取組も行うよう努めた。

(2) 業務の見直しを必要に応じて柔軟に行うと共に、臨機応変に業務分担をしていきながら効率的に勤務時間を使っていく。その中で、地域・広報活動も組み込んでいく。

⇒1カ月の業務・日々の業務を整理・分担し、スムーズに行うことができている。相談職に限らず、他職種にも何をしているのか、何をすることがわかるように、連絡・報告等で業務内容の理解や協力を得るなどの工夫をしている。

#### 4. 介護支援専門部門

(1) 多職種から新入居者情報を早めに収集し情報共有を行ない、事前説明・その方に合った居室環境決定・担当決定など適切に対応する。

⇒127ケースのサービス担当者会議を開催し、8名の看取り介護に関わり、32名の経口維持加算の管理、全入所者の日常生活継続支援加算の管理を適切に実施する事ができた。

また、多職種と連携を図り、新規入所者の情報収集と居室環境・担当職員の設定を速やかに行なった。

(2) 現業務とケアマネ連携・現場の業務の3点の視野から物事を捉え、研修を通して知識の向上を図り、入居者により良い支援ができるよう提案、改善する。

⇒研修参加、研修講師を行う等の経験も活かし、担当介護職員と連携を図って外食や外出の機会を設けて、入居者の楽しみや気分転換を図ることができた。

#### 5. 栄養部門

(1) 他職種と連携し、加算業務に取り組む。また入居者には、行事食に伴い季節感を楽しんでもらう。

⇒他職種と連携し、提携病院協力のもと栄養加算業務に取り組み、取得することができた。

入居者には、季節の食材を使用した献立を提供し、見た目と共に季節感を実感して頂いた。

(2) 委託業者の変更に伴い、厨房内の業務改善に取り組む。そして現場の安定を図り、支障なく食事提供を行う。

⇒調理師の異動や人数の減少があった為、業務改善に取り組み、厨房の安定を図った。

入居者の食事は厨房内の人数に影響されず、支障なく提供することができた。

#### 6. 機能訓練部門

(1) 他施設や他職種とも協力し、利用者にあった機能訓練をおこなっていく。また、長期に在籍していただけるように、身体や精神面の負担軽減、ストレス発散などを多職種と相談しながらおこなっていく。

⇒西岡病院のPTさんと協力して機能訓練評価をおこなった。ショート的生活機能向上連携加算(2名)を始めることができた。個別リハビリの希望にも対応して、他職種に協力していただいて一人では難しい機能訓練を行うことができた。

(2) 業務改善をおこない利用者がより楽しく笑顔になれるように効率よく対応していく。また、病院受診や送迎などの業務も協力し行っていく。

⇒他職種と協力しながら入居者の散歩や外出レク、受診などをおこない、入居者の笑顔を優先に努めた。また、開設20周年もあり、全入居者の楽しい写真を撮ることができ、ご家族にも楽しい様子が伝わるように努めた。

## 【 状況報告 】

### 1. 年齢別状況

令和2年3月31日現在

	60歳～	70歳～	80歳～	90歳～	100歳～	合計	平均年齢	最高年齢
男性	0人	3人	4人	0人	1人	8人	82歳	104歳
女性	0人	7人	19人	20人	3人	49人	89歳	106歳
合計	0人	10人	23人	20人	4人	57人	88歳	

### 2. 入所者要介護度

令和2年3月31日現在

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計 入所者数	平均 要介護度
入所者 数	0人	0人	6人	20人	31人	57人	4.4

### 3. 入退所状況

#### (1) 入所元

(単位：人)

	病院	老健	ケアハ ウス	特養	在宅	ショー トステ イ	グルー プホー ム	有料老 人ホー ム	合計
男 性	1	0	0	0	0	0	0	1	2
女 性	3	5	0	0	1	0	0	1	10
合 計	4	5	0	0	1	0	0	2	12

#### (2) 退所理由

(単位：人)

	長期入院	死去(看取り)	その他	合計
男 性	0	3(3)	0	3(3)
女 性	7	6(5)	0	13(5)
合 計	7	9(8)	0	16(8)

### 4. 入所者ADL状況

在籍者57人 (入院者3人)

令和2年3月31日現在

		自立	一部介助	全介助
食 事	経口	19人	8人	27人
	胃ろう	0人	0人	0人
移 動	車椅子	2人	4人	41人
	歩行器	1人	2人	0人
	歩行	1人	1人	2人
入 浴	一般浴	0人	1人	1人
	リフト浴	0人	6人	32人
	特浴	0人	0人	14人
排 泄 (日 中)	見守り	0人	0人	0人
	トイレ誘導	0人	10人	15人
	オムツ交換	0人	0人	29人
排 泄 (夜 間)	見守り	0人	0人	0人
	トイレ誘導	0人	2人	8人
	オムツ交換	0人	0人	44人

### 5. 短期入所月別利用者状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	155	153	168	139	152	146	149	152	173	174	181	177
1日平均	5.2	4.9	5.6	4.4	4.9	4.8	4.8	5.0	5.5	5.7	6.2	5.7

※平成30年度1日平均短期入所利用者数・・・5.3人

### 6. 入所待機者状況 (令和2年3月31日現在)

(1) 待機者数 82人 (男性 40人、女性 42人)

(2) 待機場所別

	老健	療養型	病院	在宅	その他
待機者数	24人	1人	29人	15人	13人

(3) ランク別

	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	不明
待機者数	4人	60人	18人	0人	0人

### 7. 入所者の健康管理状況

<受診状況>

令和2年3月31日現在

内科	206人	循環器	4人	眼科	1人
整形	6人	脳外科	22人	皮膚科	20人
外科	0人	泌尿器	0人	耳鼻科	7人
神内	16人	歯科	243人	婦人科	0人
精神科	0人	形成	1人	延合計	526人

<入退院状況>

	延人数	日数	平均入院日数
内科	68人	954日	14日
脳外科	0人	0日	0日
整形外科	0人	0日	0日
循環器科	2人	21日	10日
泌尿器科	0人	0日	0日
歯科	0人	0日	0日
精神科	0人	0日	0日

### 8. 入所者機能訓練実施人数

	延べ人数	日数	平均(1日)
個別訓練	1,115	213	5.2
集団体操	7,137	218	32.7
作業療法 (手作業・塗り絵)	70	26	2.7
(工作)	189	33	5.7
園芸療法	88	11	8.0
音楽療法	760	19	40.0

### 9. ボランティア活動状況

(1) 登録者数 ⇒ 定期 ～ 26人

随時 ～ 豊平区社協、その他各ボランティア団体、個人ボランティア

(2) 延活動件数 ⇒ 355件

(3) 内容 ⇒ 月行事、クラブ活動、介護補助など

# みどりの丘デイサービスセンター

## 令和1年度事業報告

### ① 令和1年度 達成目標・結果

- 1、利用者・家族の思いに寄り添い、利用者中心のサービス提供を行う
  - ・身体状況、精神状態、認知症状等が変化する利用者が多くいました。出来ていたことが出来なくなった環境の中から、今できることを見つけ提供し一緒に行うことで安心して利用して頂いた。
  - ・利用者の自宅での変化に家族の戸惑いや不安等を丁寧に聞き、不安の解消に努めることが出来た。
  - ・利用者の体調の変化、様子の変化、出来ること、対応の工夫等を伝えてきた。
  - ・毎日のゲームやレクでは、職員と一緒に参加するものを増やし変化をつけ楽しんで頂ける様工夫した。満足度調査では趣味活動時間の満足度が低かったため内容の検討が必要と感じた。
  - ・新規利用者は年間13名いたが、それ以上に入所や入院後在宅が難しい利用者が多く利用廃止者が上回り、利用者増には結び付かなかった。
  - ・3月からはコロナウイルスの影響により、更に利用者の減少が目立っている。
- 2、働きやすい職場にする為のルール・体制作り、協力を行う
  - ・業務の役割、勤務時間、決められた曜日の勤務等で情報共有の難しさは感じるが情報共有の必要性は職員一人一人が感じており、ミーティングや連絡ノート、パソコン等を活用し共有するための努力ができています。
  - ・朝の迎え時間の共有ミスがあり迷惑をかけたことがありましたが、その後は記入用紙を決め確実にみんなが確認できるようにした。

### ② 各部門達成目標・結果

#### <介護部門>

- 1、丁寧な仕事を徹底し、利用者中心のサービスを行う
  - ・利用者の要望に応えられるよう先々での気遣いを意識しながら実施できた
  - ・それぞれに時間を作りながら、利用者との関わりを大切にし傾聴等もできた
- 2、何事にも率先して取り組み、協力し合う
  - ・情報共有しながら協力し合っていたが、細かなところでは互いの仕事の理解をしつつも小さな不満があった
  - ・業務としては声を掛け合いながら行え、利用者の状況に応じた対応もできた

<看護・機能訓練部門>

- 1、体調や表情の変化を見逃さず、家族やケアマネ・訪看と速やかに連携をとる
  - ・利用者さんの体調管理については、他の職員の気づきも含め相談員やケアマネージャー、訪問看護師へと情報提供することが出来た
- 2、役割分担の明確化、速やかな報告・相談ができる環境を保つ
  - ・曜日や勤務時間が限られる勤務状況であり、情報の共有が難しかった。
  - ・勤務ではない曜日の利用者でも、増回や振り替え等に関わることもあるため利用者全体の情報を共有する必要があった。

<生活相談部門>

- 1、新規利用者・利用日数を増やすため、居宅や利用者宅への訪問をする
  - ・新規利用者の獲得は満足ではないがコンスタントに増えていました。
  - ・日数を増やしてもらえるように訪問時に必要性を説明することと、ケアマネージャーに状況の変化と必要性を電話等でも頻繁に説明し増回に繋げることができた。
- 2、情報の共有が速やかにできるよう工夫する
  - ・情報の共有や、やり取りについては決まった職員とはスムーズに出来るようになってきたが、その他の職員とは情報が入ってこない事が多いと感じる。

③ 令和1年度月別平均利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	16.1	18.7	18.4	17.7	17.4	16.0	16.5	16.9	15.7	15.7	16.7	15.2
介護予防	2.9	3.1	3.5	2.7	2.6	2.9	3.0	2.3	2.8	2.8	2.2	1.6
平均合計	19.0	21.8	21.9	20.4	20.0	18.9	19.5	19.2	18.5	18.5	18.9	16.8

令和1年度一日平均利用人数 19.5人 通所介護 16.8人 介護予防通所介護 2.7人

④ 実施行事

4～5月 花見ドライブ 6～7月 喫茶・回転寿し外出 8月 合同レク 9月 敬老会  
 10月 紅葉ドライブ 12月 年末お楽しみ会 2月 調理レク  
 他に保育園や児童会館の子供たちとの交流、中庭散策、日向ぼっこ等を行いました。

⑤ その他

11月より介護保険外サービス、買い物代行開始 現在月に3～6件の依頼あり主にアルコール、たばこ、リハパン等が多く、食料品の依頼はほぼない。



# リハビリデイサービス ふぁいと

## 令和元年度事業報告

### I 平成元年度達成目標について

1. より良いサービス向上と経営安定を目指す。

◇介護主任が不在で行ったが、担当を振り分け各職員が責任をもって行うことが出来た。利用率を安定する取り組みとして、相談員の営業活動、広報活動、他職員は体験利用者の満足度を上げる取り組みをおこない利用率を上げることが出来たが、前期の利用率の落ち込みをカバーするまではいかなかった。

2. 札幌光陽会の特色・特徴を再確認し、広く知られるための活動をおこなう。

◇ホームページの更新、介護職員が普段の様子を写真撮り相談員から家族、ケアマネジャーにお伝えした。その他に介護者の集い、介護予防センターの運営への参加などを積極的におこなった。

### II 各部門達成目標について

#### 生活相談部門達成目標について

1. 新規居宅への営業及び繋がりのある居宅ケアマネとの関係性をより良好なものとする

◇新規居宅への営業はおこなったが、新規紹介はなかった。継続的な訪問、関係づくりが必要。以前繋がりがあった居宅へ営業した際は紹介の話も出た。利用人数の低迷もあるため、営業可能になってから積極的な営業をおこなっていく必要性あり。  
ふぁいとの特色を伝える方法の再検討。

2. 利用者の活動内容や些細な変化について直接家族、ケアマネへ伝える機会を持つ。また、お便り、広報誌での情報発信を継続する

◇写真を持って訪問することで本人もそうであるが、家族、同席したケアマネが喜ぶことが多かった。特に笑顔の写真は喜ばれる傾向。  
お便りに載せる写真は枚数を多くするより掲載サイズを大きくすることで見やすさを重視。自分が載っているお便りを自宅に掲示している利用者も居る。  
居宅ごとに利用者の活動している姿をまとめたものを作成したいと考えていたが実施出来ず。介護職が写真を沢山撮っているため、来年度は実施したい。

#### 機能訓練部門達成目標について

1. 近隣事業所の状況を把握し、ふぁいとに必要なサービスの再点検を行う

◇同業他事業所の見学を実施し、ふぁいとのリハビリの量や質の充足度を確認することができた。また、モフトレの業者プレゼンに同席し、現在の生活リハの内容も利用者さんの実生活に合った関わりであることを確認することができた。  
ただし、事業所訪問は1か所のみにとどまった。



2. 介護者の集い等に参加し、リハビリ情報の提供を通じて、ふぁいとの存在を地域の方に知って頂く

◇月1度の会に参加することで、地域の方数名と顔見知りになることができた。リハビリ情報の提供まではできなかったが、地域のリハビリの担い手が必要であることが理解でき予防・地域へのリハ職の必要性を感じる事ができた

#### 看護部門達成目標について

1. 看護業務の再確認を行い、情報を共有し、基本的な業務を積み重ねることにより、利用者の信頼を得られるような看護業務を行なう。

◇実務の中で看護業務の手順を複数の看護師で再確認するようにした。新規の課題についても、単独勤務の時は看護ノートを利用して、看護師間で情報を共有したうえで、利用者に対応することはできた。

2. ふぁいと便りを利用して時期に応じた、生活に役立つ健康情報を工夫し家族に発信する

◇「ふぁいと便り」は当該の時期に既存のものを確認し、修正して発信するにとどまり、新規に作成することはできなかった。

#### 介護部門達成目標について

1. 各種業務分担を明確化し、サービスの向上と職員間の共有を深める

◇それぞれ担当した業務を行う事はできた、誕生カードなど月毎に担当した業務が煩雑になってしまった。次年度はそこを踏まえ業務分担していきたい

2. デイサービスでの様子を多職種と連携し、定期的に発信していく

◇おたよりは相談員が毎月写真等を載せてご家族に発信する事ができた。ホームページは月1、2回程度で更新の頻度が少なかったため担当を決めて頻度を増やしクオリティを上げていきたい。

訪問時の写真はご家族やケアマネジャーに好評だったが1年目という事もあり、提供した写真の精査ができず同じポーズや表情、服装で変化がなかった。次年度はバラエティーに富んだ写真を提供していきたい。

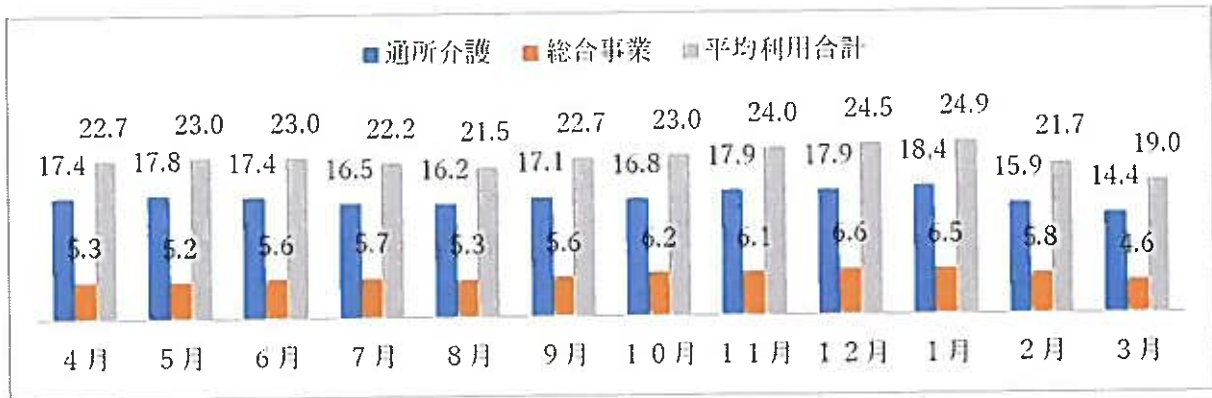
### Ⅲ 月別平均利用者数状況

#### 令和元年度平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	17.4	17.8	17.4	16.5	16.2	17.1	16.8	17.9	17.9	18.4	15.9	14.4
総合事業	5.3	5.2	5.6	5.7	5.3	5.6	6.2	6.1	6.6	6.5	5.8	6.6
平均利用合計	22.7	23.0	23.0	22.2	21.5	22.7	23.0	24.0	24.5	24.9	21.7	19.0

#### 令和元年度新規利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	2	1	1	0	2	1	1	0	1	2	0	1
総合事業	1	0	1	1	2	2	3	1	0	0	0	0
新規利用合計	3	1	2	1	4	3	4	1	1	2	0	1



令和元年度	平均利用者数	22.7人	新規利用者数	23人
	通所介護	17.0人	通所介護	12人
	総合事業	5.7人	総合事業	11人

### Ⅳ リハビリ・トレーニング以外の活動について

ふあいとスクール（脳トレーニングを中心とした活動）を行ないました。①計算問題②漢字書き取り③ペン習字④塗り絵⑤クロスワード問題⑥カラオケ等を行なった。希望や趣味などを踏まえて、個別の希望にあわせた内容を提供しました。

### Ⅴ 行事について

- |            |          |
|------------|----------|
| 6月外食       | 9月カラオケ外出 |
| 9月敬老週間     | 10月統合ケア  |
| 12月年末お楽しみ会 |          |

□ 令和元年度 達成目標について

- (1) 利用者が真に必要なサービスを提供できるよう、職員一人ひとりの介護技術や専門的知識等を内部研修などの機会を通じて図る。  
○内部研修を通じて、通常業務についての振り返りを適宜行った。  
○介護保険等に関する知識はまだ不足しているため、今後も学ぶ機会を持ちたい。
- (2) 職員各自が働きがい・やりがいを感じられる運営を心掛け、地域に貢献できる。  
○働きがい・やりがいについては職員各自で感じ方は異なるが、概ね高いと思われる。  
○地域貢献についてはまだまだ不足しており、意識しての運営を継続する。

□ 研修・会議等

1 研修

- 法人内研修/在宅事業部～年2回の研修には登録ヘルパーの参加率が低下してきた。  
登録ヘルパーの夜間時間帯の出席が難しくなっている。
- 事業所内研修の充実～研修計画に基づいた研修を、会議ごと実施。  
事例検討等を前年度に引き続き実施した。  
意見交換等を活発に行う場面が増えた。
- 外部・各種団体研修～常勤ヘルパーが外部研修に参加する機会は業務多忙により参加することができなかった。

2 会議

職員会議（月1回 第4木曜日）、在宅事業部会議（月1回）、ケース会議（適宜）、サービス担当者会議への出席（サービス提供責任者）

3 その他

- 満足度調査～7項目のケア内容に対して、全項目73%以上に満足を受けた。  
また不満足はない。  
自費サービスについて「使いにくい」という意見があったため、今後改善する。
- その他～職員健康診断、インフルエンザワクチン接種、介護サービス情報公表制度への対応

□ 年間利用者数

内訳	訪問介護	延べ 263 人	月平均 21.9 人
	総合事業	延べ 878 人	月平均 73.2 人

新規の問い合わせは多いが、主に総合事業である。  
今後、可能な限り身体介護を含むケアを受けられるようにしたい。

# 令和元年度 みどりの丘指定居宅介護事業所 事業報告

## ■ 令和元年度 達成目標について

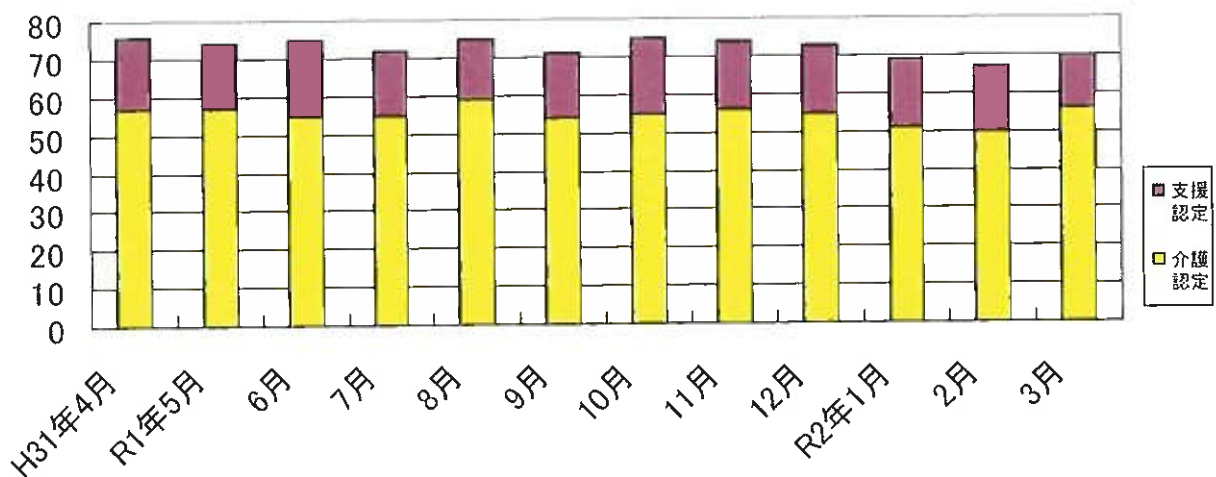
- (1) 介護保険をベースに各種制度等も織り交ぜ、関係機関と連携を図りながら、多面的な支援が展開できるよう意識する。
  - 訪問診療への移行などを積極的に提案し、実際の利用に複数結びつけられた。
  - 医療連携にかかる加算を適宜算定することができた。
- (2) 効率的な業務を行えるよう適宜業務改善を実施し、職員の心身の健康にも配慮した運営を行う。
  - 業務効率化について随時相談し、実行することができた。
  - 職員各自が健康管理に努め、有休休暇も取得できた。

## ■ 活動内容・業務実績

- (1) 相談業務
  - ⇒ 訪問・電話連絡の方法を中心に、可能な限り迅速に対応した。
- (2) 居宅サービス計画書（ケアプラン）の作成
  - ⇒ 要介護認定者の件数は増加（昨年度629件、今年度660件）。
  - ⇒ 要支援認定者の予防サービス調整は減少（昨年度 303 件、今年度 211 件）。
- (3) 居宅訪問
  - ⇒ 随時・適宜に訪問を行うようにし、柔軟に対応をした。
- (4) 関係機関との連携
  - ⇒ 各関係機関との連携を図り、都度・適宜の情報交換を行った。
- (5) その他
  - ⇒ 特定事業所加算を算定できなくなったため、実習生の受け入れせず。
  - ⇒ 今年度より介護支援専門員2名体制へと移行したが、特に混乱等なし。

## ■ 給付管理・ケアマネジメント件数

- ⇒ 年間給付管理数：871 件（内 要介護者：660 件、要支援者：211 件）
- ⇒ 前年度に比べ「要介護認定者」は増、「要支援認定者」は減の結果となる。
- ≪月別給付管理数≫ 月平均：月平均：要介護者 55 件、要支援者 17.6 件（下記グラフ参照）



# 令和元年度 札幌市豊平区介護予防センター西岡 事業報告

## ■ 令和元年度 達成目標について

- 1、地域の実情に即した介護予防事業などを計画し、実行する。
  - ①西岡地区の関係機関との連携を深め、西岡地区の課題解決に努めることができた。
  - ②関係機関と協同で認知症イベントを開催し、認知症に関する啓発活動を実行できた。

## ■ 活動実績

### (1) 介護予防活動 《すこやか倶楽部（介護予防教室）・転倒予防教室・認知症予防教室》

	開催数	参加者数	活動内容
H31/4月	12回	119名	ふまねっと／折り紙倶楽部／絵手紙倶楽部
R1/5月	11回	564名	ふまねっと／健康セミナー／絵手紙倶楽部
6月	15回	305名	ふまねっと／折り紙倶楽部／歌の会
7月	16回	342名	ふまねっと／ノルディックウォーキング／盆踊り
8月	13回	253名	ふまねっと／姿勢学／折り紙倶楽部
9月	11回	208名	ふまねっと／折り紙倶楽部／
10月	10回	179名	ふまねっと／歌の会／折り紙倶楽部
11月	13回	314名	ふまねっと／転倒予防教室／クリスマスリース作り
12月	12回	246名	ふまねっと／転倒予防教室／こりめ脳活体操
R2/1月	12回	148名	ふまねっと／折り紙倶楽部／転倒予防教室
2月	12回	251名	ふまねっと／転倒予防教室／カーリンコン
3月	11回	235名	ふまねっと／折り紙倶楽部／転倒予防教室
合計	148回	3164名	

### (2) 地域支援事業

- 介護者の集い（毎月第2金曜日に開催）  
⇒合計78名の介護者が参加
- 老人クラブ（楽寿会・友和会・喜楽会など）への支援  
⇒定例会に参加。健康講話や介護予防に関する情報を提供する。
- サロン活動への協力  
⇒夢クラブ（ライオンズ町内会）、あえーる（2区中央町内会）、  
サロンさくら（さくら町内会）、サロン・ド・あかしや（あかしや町内会）、  
いきいきクラブ（クローバー町内会）、西岡4丁目健康サロンへの参加・協力。
- 福祉のまち推進センター執行幹事会、西岡音頭普及会  
⇒毎月参加。
- 転倒予防教室  
⇒地域の集いの場所としても活動できた。  
活動場所の確保について課題があったが、新規開拓に努めた。

### (3) 相談対応

- 地域の高齢者からの相談対応（訪問／電話／面接）  
⇒合計80件の介護予防等に関する相談に対応する。  
認知症に関する相談が多く、包括・区の保健師などと連携し、  
対応した。